別紙 - 3 (17)

(検査員) 〔記入方法〕 1. 該当する項目の□に「レーマークを記入する。 考查項目 工 種 地すべり防止工事 □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。<判断基準参照> 3. 出来形及び □ 品質関係の測定方法又は □ 品質関係の測定方法又は 出来ばえ 「関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験」 ※ ばらつきの判断は別紙 - 7参照。 測定値が不適切であったた 測定値が不適切であったた (その2) め、監督職員が文書で指示 め、検査職員が修補指示を ●評価対象項目 11. 品質 【共涌】 を行い改善された。 行った。 □コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。 □ 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。 □ コンクリートの圧縮強度を管理しており、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っている。 □ コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度・w/c、最大骨材粒径、塩化物総量、単位水量、アルカリ骨材反応抑制等)が確認できる。 □運搬時間、打設時の投入高さ、締固時のバイブレータの機種及び養生方法が、施工条件及び気象条件に適しており、定められた条件を満足していることが確認できる。 (寒中及び暑中コンクリート等を含む) □ 地山との取り合わせを適切に行っていることが確認できる。 □ 鉄筋及び鋼材の品質が、証明書類で確認できる。 □ 有害なクラックが無い。 一 その他 【地すべり防止工事(抑止アンカー工事(グランドアンカー、ロックボルト))】 □ アンカー施工長さが全本数確認できる。 □ アンカー施工角度が適正であることが確認できる。 □ 削孔内のスライム処理が適切に行われていることが確認できる。 □ 注入材の充填が適切であり、引張力試験値からも確認できる。 □ 頭部処理(定着金具、キャップへの防錆グリスの充填、防水処理等)が適切に行われていることが確認できる。 □ 設計図書や本工法に関する設計、施工指針に基づき、定められた施工手順により行われていることが確認できる。 □ アンカー材や注入原材料の保管管理が適正であることが確認できる。 □ 受圧板が適正に施工されていることが確認できる。 ① 当該「評定対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 □その他 理由: ② 削除項目のある場合は削除後の評定項目数を母数として計算した比率 (%) 計算の値で評価する。 【地すべり防止工事(暗渠排水工事)】 □ 基礎部が凸凹蛇行のないように施工されている。 ③ 評価値 (%) = 評価数 () /対象評価項目数 () □ 地盤面に不陸が生じていないことが確認できる。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は、C評価とする。 □ 暗渠管の接続が適切に施工されていることが確認できる。 □ 栗石が均一に詰め込まれていることが確認できる。 □ 埋め戻しは締め固め地山のすり付けに配慮し施工されている。 □ クラックがある場合、進行性又は有害なクラックが無く、発生したクラックに対して □ その他 は有識者等の意見に基づく処置を行っている。 ※別紙-7を参照 理由: 上記該当あれば・・・・・・c 【地すべり防止工事(集水ボーリング)】 ばらつきで判断可能 ばらつきで □ ボーリングの掘削位置、配列、方向、仰角、深度等は設計図書に基づき適正に施工された。 ●判断基準 判断不可能 50%以下 80%以下 80%を超える □ ボーリング孔からの排水処理は適切に行われており、再浸透が防止されている。 □ 掘削機械に応じた適切な足場が設置されたことが確認できる。 90%以上 b □ボーリングの孔□は施工に先立ち法面を整備し土砂崩壊が起きないように施工された。 75%以上 90%未満 a' b b' □ 保孔管のストレーナー加工は設計図書に基づき適正に施工されたことが確認できる。 □ 検尺の記録がある。 60%以上 75%未満 b b' C □ その他 60%未満 b' ※ 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目 (評価値) だけで評価する。

別紙-3億

〔記入方法〕1. 該当する項目の□に「レ」マークを記入する。

工 種 考查項目 3. 出来形及び 落石防止工事 □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。<判断基準参照> □ 品質関係の測定方法又は □ 品質関係の測定方法又は 出来ばえ (落石防止ネット、 [関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ ばらつきの判断は別紙 - 7参照。 測定値が不適切であったた 測定値が不適切であったた 落石防止柵) め、監督職員が文書で指示 め、検査職員が修補指示を ●評価対象項目 Ⅱ. 品質 □ 地山との取り合わせが適切に行われている。 を行い改善された。 行った。 □ 材料の規格がミルシート等で確認できる。 □ ボルトや連結金具の締付が適切に施行されている。 □ アンカーや網の重ね合わせが設計書どおり施行されている。 □ ワイヤーが適切に緊張されている。 □ 端部の処理が適切に行われている。 □ その他 理由: ① 当該「評定対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評定項目数を母数として計算した比率 (%) 計算の値で評価する。 ③ 評価値 (%) = 評価数 () /対象評価項目数 () ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は、C評価とする。 ばらつきで判断可能 ばらつきで ●判断基準 80%以下 80%を超える 判断不可能 50%以下 90%以上 a' b b а 75%以上 90%未満 a' b b' 60%以上 75%未満 b b' С С 60%未満 b' ※ 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目 (評価値) だけで評価する。

別紙-3(19)

〔記入方法〕1. 該当する項目の□に「レ」マークを記入する。 (検査員) 考査項目 工 種 3.出来形 ┃ シールド工事 ┃ □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。<判断基準参照> [関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] □ 品質関係の測定方法 □ 品質関係の測定方 及び 又は測定値が不適切で 法又は測定値が不適 ※ ばらつきの判断は別紙 - 7参照。 推進工事 出来ばえ あったため、監督職員 切であったため、検 ●評価対象項目 が文書で指示を行い改 査職員が修補指示を □目々計測・管理を行っており、それに基づいた施工が行われていることが確認できる。 Ⅱ. 品質 □ セグメントや推進管が損傷しないよう配慮されていることが確認できる。 ① 当該「評定対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 □ 接合部が適切に施工されていることが確認できる。 ② 削除項目のある場合は削除後の評定項目数を母数として計算した比率 (%) 計算の □ コンクリート打設時の必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量が確認できる。 値で評価する。 ③ 評価値(%) = 評価数 () /対象評価項目数 () □ 構造物と同様な養生条件におかれた供試体を用いて強度確認を行っている。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は、C評価とする。 □ 裏込め材等の注入が適切に施工されていることが、記録から確認できる。 ●判断基準 □ その他 ばらつきで判断可能 ばらつきで 判断不可能 50%以下 80%以下 80%を超える 理由: 90%以上 75%以上 90%未満 60%以上75%未満 b' b' 60%未満 ※ 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目 (評価値) だけで評価する。 管路工事 □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。<判断基準参照> [関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] □ 品質関係の測定方法 □ 品質関係の測定方 ※ ばらつきの判断は別紙-7参照。 又は測定値が不適切で 法又は測定値が不適 あったため、監督職員 切であったため、検 ●評価対象項目 が文書で指示を行い改 査職員が修補指示を □ 管材料は日本水道協会検査証明等、品質規格証明書が整備されている。 善された。 行った。 □ 接合作業にあたり、作業員の技量確認を行っている。 □ 接合面が適切な処理を行っていることが確認できる。 ① 当該「評定対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 □ 接合器材の管理・取扱が適切に行っていることが確認できる。 ② 削除項目のある場合は削除後の評定項目数を母数として計算した比率 (%) 計算の値で評価する。 □ 接合結果が記録され、確認できる。 ③ 評価値 (%) = 評価数 () /対象評価項目数 () □ 管布設状況の記録がなされ、整理されている。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は、C評価とする。 □ 施工基面が平滑に仕上げられている。 ●判断基準 ばらつきで判断可能 ばらつきで □ 施工条件に適した方法で作業が行われている。 判断不可能 50%以下 80%以下 80%を超える □ 管の下端、側部の締固めが均等に実施されている。 90%以上 □ 付属構造物にきめ細かな施工がうかがえる。 価 75%以上 90%未満 b b' b' □ その他 60%以上 75%未満 b 理由: h' 60%未満 ※ 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目

別紙-320

〔記入方法〕 1. 該当する項目の□に「レーマークを記入する。

(評価値) だけで評価する。

考査項目	工種	а	a'	b	b '		С	d		е			
3. 出来形及び 出来ばえ	港湾築造工事 (浚渫、海岸築造 工事を含む。)		理基準、その他設計図書に定	犬況(評価値)から判断する。 められた試験]	<判断基準参照>			□ 品質関係の測 測定値が不適切 め、監督職員か]であったた	□ 品質関係の測 測定値が不適切 め、検査職員か	可であったた		
Ⅱ.品質	T-9-E-100 /	●評価対象項目 □仕様書等で定められている品 □材料の品生等環境保全に十分治 □浚渫工の施工上の注意事項 □ 片泥を巻き込まなレーンが計画では、ままで、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では	国書等との適切性確認ができる 主意して施工していることが確 は使して施工していることが確 は仕様書等による)が守られて した一様な形状に施工され、 をした一様な形状に施工され、 をした一様な形状に施工され、 をした一様な形状に施工され、 をした一様な形状に施工され、 をした一様ないないをが重続した一様ないないを をした一様ないないを をした一様ないないででいます。 をした一様ないないを をした一様ないないを をした一様ないないを をした一様ないないを をした一様ないないを をした一様ないないを をした一様ないないを に定めらきるに施工さい。 をはないい。 をででいまする。 をででは、 をでいますには、 をないれたは、 にことがない。 をでいますには、 をないれたは、 にことでできる。 をはないないできます。 をはないい。 をはないい。 をはないい。 をはまりいよう堅固にしてで確認 ででいまする。 をはないないでは、 にしてではいます。 にしてではいます。 にしてではいます。 にしてではいます。 にしてではいます。 にしてではいます。 にしてではいます。 にしているにはいます。 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、 には、	に認できる。 にいる。 にいる。 にいる。 にできる。 記録により確認できる。 にご録により確認できる。 こされ、記録により確認できる。 こされ、記録により確認できる。 はれ、記録により確認できる。 はれ、記録により確認できる。 はなれている。 はなが確認できる。 はなができる。 はなれている。 はなができる。 はないないないないないない。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にいる。 にい				。 、 血 も が で 行 い 改 善 さ オ		行った。			
							I	ı	ばらつきで判断	 「可能	ばらつきで		
		① 当該「評定対象項目」の)うち、対象としない項目は削	除する。			●判断基準	50%以下	80%以下	80%を超える	判断不可能		
		② 削除項目のある場合は削	除後の評定項目数を母数とし	て計算した比率(%)計算の化	直で評価する。	評	90%以上	а	a'	b	b		
		③ 評価値(%) = 評価数() /対象評価項目数()							b	b'	b'		
		④ なお、削除後の評価対象	k項目数が2項目以下の場合は	t、C評価とする。		値	60%以上 75%未満	b	b'	С	С		
							60%未満	b'	С	С	С		
						*	試験結果の打点数等 (評価値) だけで評価		きの判断がで	できない場合は評価対象項目			

別紙-3②

〔記入方法〕	1. 該当する!	頁目の□に「レ」マークを記入する。									(検査員)					
考査項目	項目工種a		a'	b	b'		С		d		е					
3. 出来形 及び	軽量盛土工事	□ 品質関係の試験結果のばらつきと評 ※ ばらつきの判断は別紙 - 7参照。	平価対象項目の履行状況(評価値)カ	ら判断する。<判断基準参照>	[関連基準、土木工事施工管理	≣基準、そ	の他設計図書に定められ	れた試験]								
出来ばえ		●評価対象項目							· ·							
. 品質		□ 施工基面が平滑に、又段切りが行わ	っれていることなど、施工上の必要な	基面措置がなされている。												
		□ 材料の積重ね、緊結、締固め等が過	適切であり、施工に細かい配慮が伺え	.る。												
		□ 施工中の雨水対策(降雨、流水等)	が適切に行われていることが確認で	きる。		① 当該「評定対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。										
		□ 透水シート、暗渠排水等の付帯施設	殳が適切に施工され、地山等との取り	合いが良いことが確認できる。		② 削除項目のある場合は削除後の評定項目数を母数として計算した比率 (%) 計算の 値で評価する。										
		□ 軽量材自立面の壁面保護工等、本コ	L法に係る付帯施設が適切に施工され	ていることが確認できる。												
		□その他				④ な‡	お、削除後の評価対象項	目数が2項目」	以下の場合は	、C評価とす	る。					
		理由:		<u> </u>			 ●判断基準		> - + - with	d e 品質関係の測定方法 は測定値が不適切で ったため、監督職員 び書で指示を行い改 された。 「項目は削除する。 の場合は、C評価とする。 つきで判断可能 30%以下 80%を超える a' b b' b' c c c c で c c c c 判断ができない場合は評価対象項目 d e 品質関係の測定方法 は測定値が不適切で ったため、監督職員 があった。 はあつきで 判断不可能 はかつきで 判断不可能 はかつきで 判断不可能 はかつきで 判断不可能 はかつきで 判断不可能 はがつきた ない場合はに ここと はかったため、監督職員 がなったため、監督職員 ができない場合は消にが不適切で ったため、監督職員 がであったため、会 ない項目は削除する。 ない項目は削除する。 ななを母数として計算した比率(%)計算 象評価項目数() 以下の場合は、C評価とする。						
							●刊断基準	50%以下			datales Ak					
						評	90%以上	50%以下 a			2					
						価	75%以上 90%未満	a'								
	15%以上90%末滴 a 60%以上75%未満 b 60%未満 b'															
								С	С	С						
						*	・ 試験結果の打点数等が少	なくばらつき	の判断ができ	ない場合は評	P価対象項目					
			T	Т	<u> </u>		(評価値) だけで評価す	る。								
	さく井工事	а	a'	b	b'		С									
		□ 品質関係の試験結果のばらつきと評 ※ ばらつきの判断は別紙 - 7参照。	平価対象項目の履行状況(評価値)か	、ら判断する。<判断基準参照>	[関連基準、土木工事施工管理											
		●評価対象項目							あったため、監督職員切であったため、村							
		□ 工事に先立ち地下水に対する地盤調	周査等の分析が入念になされている。													
		□ 掘削記録及び電気検層結果等が適り	刃に管理されている。						善された。		った。					
		□ 揚水試験が仕様書どおり適切に実施	毎キわプ いる		***************************************											
		□ 孔内の仕上げが仕様書どおり適切に				-	当該「評定対象項目」の				11.表 (0/) =1答					
		□ 掘削中の孔壁保護が入念に施工され					削除項目のある場合は削 値で評価する。	际仮の計正項	∃剱を母剱と	して計算した。	几半(%)訂昇					
		□ フイルター材、埋め戻し等が入念に					評価値 (%) = 評価				± 7					
		□ ケーシング等挿入、接合作業等が過				4) /	なわ、削除後の評価対象	県日剱か∠県	日以下の場合	は、し評価と	9 a.					
		□その他					●判断基準 la			ばらつきで判断可能						
		理由:					50%以下	80%以下	80%を超え	る判断不可能						
						評	90%以上	а	а'	b	b					
						価値	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'					
				III.	60%以上 75%未満	b	b'	С	С							
							60%未満	b'	С	С						
		※ 試験結果の打点数等が少なくに (評価値) だけで評価する。								ができない場合	は評価対象項目					

別紙-3②

〔記入方法〕	1. 該当する項目	目の□に「レ」マークを記入する。									(検査員)					
考査項目	エ 種	a	a'	b	b'		С		c	I	е					
及び		□ 品質関係の試験結果のばらつき。 ※ ばらつきの判断は別紙 - 7参照	と評価対象項目の履行状況(評価値) 号。	から判断する。 <判断基準参照 >	[関連基準、土木工事施工管理	里基準	、その他設計図書に定め	られた試験]	又は測定値だ	が不適切で 法	品質関係の測定方 又は測定値が不適					
	芝舗装・	●評価対象項目	크	F) α.75=2.7 ←							であったため、検 職員が修補指示を					
Ⅱ. 品質	テニスコート等)		プルフローリング等を行い、支持地盤(路原	た) の帷部を打つている。					善された。	行	った。					
		□ 施工基盤が平滑に仕上げられてい				Γ	① 当該「評定対象項目	目は削除する。								
		□ 材料の品質証明が適切で、保管		/性在 人工儿 医心体性 存在 !	「森北白井笠)北西町でもっ		② 削除項目のある場合		定項目数を母	数として計算	した比率					
			試験)が行われており、品質の規格		上張以艮州寺)か帷祕でさる。	(%)計算の値で評価する。 ③ 評価値 (%) = 評価数 () / 対象評価項目数 ())					
			法が明確で、品質確保に創意工夫が身	むりれる。			④ なお、削除後の評価:		,		<i>'</i>					
		□ 植生(芝)の種類、品質、施工行	後の養生が適切である。			_		1								
		□ その他					●判断基準		らつきで判断		ばらつきで					
		理由:		<u>-</u>		-		50%以下		80%を超え						
						評価		a .	a'	b	b					
						値	15/0以上 90/0不凋	a'	b	b'	b'					
							60%以上75%未満	b b'	b'	С	С					
						_			C	C のきかい担合け	C C T T T T T T T T T T T T T T T T T T					
							(評価値)だけで評価		7 日 の 十 月 的 ガ・	Ceavmon a	(計画対象項目					
	防球ネット工事	а	a'	b	b'		С		d	ı	е					
	防砂ネット工事	□ 品質関係の試験結果のばらつき。 ※ ばらつきの判断は別紙 - 7参照		対象項目の履行状況(評価値)から判断する。<判断基準参照> [関連基準、土木工事が				又は測定値が不適切で 法又に								
		●評価対象項目									であったため、検					
		□ 品質管理方法が明確で、正確な施工方法が伺える。														
		□ 材料の品質証明が適正であるこ	とが確認できる。													
		□ 主柱および支柱の配置、根入、根枷位置、建柱角度等が適切に施工されていることが確認できる。														
		□ 主ワイヤーおよび補助ワイヤー等の設置(張具合、取付金具等)が適切に施工されていることが確認できる。 □ 主ワイヤーおよび補助ワイヤー等の設置(張具合、取付金具等)が適切に施工されていることが確認できる。 □ ② 削除項目のある場合は削除後の														
		□ ネットの張高、継目(重ね処理等	等)、張具合等が適切である。				(%) 計算の値で評価。	する。								
		□ その他					③ 評価値(%) =④ なお、削除後の評価:									
		理由:		-		L	少な45、前派及55日間	^13/SCI	240010	-%) ∐ (& C O II I	шс , о					
							●判断基準	li	らつきで判断	近 可能	ばらつきで					
								50%以下	80%以下	80%を超え	る判断不可能					
						評		а	a'	b	b					
						価値	13/0以上 30/0不凋	a'	b	b'	b'					
						112	60%以上 75%未満	b	b'	С	С					
						60%未満 b' c c					С					
※ 試験結果の打点数等が少なくばらつきの (評価値) だけで評価する。								でらつきの判断	折ができない場	合は評価対象項目						

別紙-3②

〔記入方法〕1.該当する項目の□に「レ」マークを記入する。

考査項目	工種	а	a'	b	b' c		d		е						
3. 出来形 及び		□ 品質関係の試験結果のばらつきと言 ※ ばらつきの判断は別紙 - 7 参照。		_	-	準、そ		れた試験]	□ 品質関係	の測定方法	品質関係の測定方 又は測定値が不適				
出来ばえ		●評価対象項目									であったため、検				
. 品質		□ 有害な割れ傷等がない。							が文書で指示 善された。		職員が修補指示を った。				
п. шд		□ 継ぎ手部の処理が適切である。							n C 10/C	13	<i>57</i> 00				
		□ 防腐剤処理や材料の寸法等が証	明書等で確認できる。												
		□ 杭と横木の取り付けが適切であ	る。												
		□ 根入れ部の処理が適切である。					●判断基準	ば	らつきで判断		ばらつきで				
		□その他				50%以下 80%以下 80%を超える 判断									
		理由:		-		評	90%以上	а	a'	b	b				
						価	-	a'	b	b'	b '				
		① 当該「評定対象項目」の	Dうち、対象としない項目は削除する	•		値	60%以上75%未満	b	b'	С	С				
		② 削除項目のある場合は削	削除後の評定項目数を母数として計算	した比率(%)計算の値で評価する			60%未満	b'	С	С	c				
		③ 評価値 (%) = 評価	価数 () /対象評価項目数 ()		*	試験結果の打点数等が	1							
		④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は、C評価とする。 (評価値) だけで評価する。													
	港湾維持修繕	а	a'	b	b'		С		d	ı	е				
	工事 (電気・被覆	□ 品質関係の試験結果のばらつきと記※ ばらつきの判断は別紙 - 7参照。	評価対象項目の履行状況(評価値)か	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	[関連基準、土木工事施工管理基	準、そ	の他設計図書に定められ	ıた試験]			品質関係の測定方 又は測定値が不適				
	防食工)	●評価対象項目 【電気防食工関係】 □ 材料の実施数量は設計数量を満足している。													
		□ 陽極の種類化学成分が承諾された品質に適合している。													
		□ 国極の形状寸法が承諾された形状寸法に適合している。□ 当該「評定対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。													
		② 削除項目のある場合は削除後の評定項目数を母数として計算した比率 □ 陽極の質量が承諾された質量に適合している。 (%) 計算の値で評価する。													
		□ 陽極板の電流効率等(陽極電位、発生電流)が承諾された値に適合している。 □ 陽極板の電流効率等(陽極電位、発生電流)が承諾された値に適合している。 ③ 評価値(%) = 評価数() /対象評価項目数()													
		□ 陽極に取付け位置が確認できる。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は、C評価とする。													
		□ 被覆溶接の形状寸法(のど厚、脚身				\vdash	●和陈井洙) > - + - William	~ — 42	183 - + -				
		□ 電気防食の効果確認が整理・記録る	されている。				●判断基準		らつきで判断		ばらつきで z 判断不可能				
		□その他						50%以下		80%を超え	J				
		理由:		<u> </u>		評価	90%以上	а	a'	b	b				
		【被覆防食工関係】				値	75%以上 90%未満	a'	b	b '	b '				
		□ 材料の実施数量は設計数量を満	足している。				60%以上 75%未満	b	b'	С	С				
					60%未満	b'	С	С	С						
			□ 保護カバーの種類が承諾された品質に適合している。 □ 保護カバーの品質が承諾された品質に適合している。 ※ 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目												
		□ 被覆防食の取付け位置が確認できる。 (評価値) だけで評価する。													
		□その他													
		理由:	理由: <u> </u>												
		1													

別紙-324

〔記入方法〕1.該当する項目の□に「レ」マークを記入する。

(記入方法) 1. 該当する項目の口に「レ」マークを記入する。								(快且貝)						
考査項目	エ 種	а	a'	b	b'		С		d		е			
	(汚染土壌処	□ 品質関係の試験結果のばらつきと記 ※ ばらつきの判断は別紙 - 7 参照。 ●評価対象項目 □ 雨水による土壌汚染が拡大しない	いように、作業手順及び排水対策:	等を適切に実施している。	[関連基準、土木工事施工	管理基準、	その他設計図書に定められ	1た試験]	又は測定値か あったため、	「不適切で 法又 監督職員 切で	品質関係の測定方 は測定値が不適 あったため、検 員が修補指示を た。			
		□ 規定された剥ぎ取り深度が確保 □ 剥ぎ取り後の確認が適正である。 □ 汚染土壌の運搬は適切であり、 □ 植生工・種子吹付等を適宜、適けで採材、根、クレイ、ワッズ等	ことが関係書類により確認できる。 運搬管理も良好である。 切に行っている。	,		① 当該「評定対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評定項目数を母数として計算した。 値で評価する。 ③ 評価値(%)=評価数()/対象評価項目数() ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は、C評価と								
		□ 法面に有害なクラックや損傷部:	がない。			Г	●判断基準	14	うつきで判断	Cat 4k	ばらつきで			
		□その他					●刊剛基年	50%以下		80%を超える	Not the Total			
		理由:		<u> </u>			E 000/1911							
						自	-	a	a'	b b'	b b'			
						í	13/0 以上 30/0 不凋	a'	b b'					
							60%以上75%未凋	b b'		С	С			
						-	00%末凋 試験結果の打点数等が		C さまの別版でいっ	C 5まかい担合はii	C			
							※ 試験結果の打点数等が (評価値)だけで評価		さの判断が(ごさない場合は計	†1個別家項目			
49	鋼橋補修工事	а	a'	b	b'		С		d		е			
	(炭素繊維シート工法)	□ 品質関係の試験結果のばらつきと割 ※ ばらつきの判断は別紙 - 7 参照。 ●評価対象項目 □ 品質管理方法が明確で、正確な) □ 材料の品質証明が適正であるこ	施工方法が伺える。	>ら判断する。<判断基準参照>	[関連基準、土木工事施工行	管理基準、	その他設計図書に定められ	1た試験]	□ 品質関係の測定方法 □ 品質関係の測 又は測定値が不適切で 法又は測定値が あったため、監督職員 切であったため が文書で指示を行い改 善された。 査職員が修補指 行った。					
		□ ひび割れ補修(注入等)が適正 □ 下地処理が適正に行われている。 □ 工法の手順通り、各段階の施工。 □ 施工の各段階において、監督員。 □ 接着剤等の空缶管理が、写真で	ことが確認できる。 が適正に行われている。 の立会いが実施されている。				② 削除項目のある場合 (%) 計算の値で評価で ③ 評価値(%) =	目」のうち、対象としない項目は削除する。 合は削除後の評定項目数を母数として計算した比率 面する。 = 評価数 () /対象評価項目数 () 面対象項目数が 2 項目以下の場合は、 C 評価とする。						
		□その他					▲判終甘淮	14	うつきで判断	行能	ばらつきで			
							50%以下	80%以下	80%を超える	statuted Ale				
						1	90%以上	а	a'	b	b			
						fi	75%以上 90%未満	a'	b	b '	b'			
						fi	60%以上 75%未満	b	b'	С	С			
							60%未満	b'	С	С	С			
		※ 試験結果の打点数等が少なくし (評価値)だけで評価する。							らつきの判断	ー 折ができない場合	u e e e e e e e e e e e e e e e e e e e			

別紙 - 325

〔記入方法〕 1. 該当する項目の□に「レーマークを記入する。 (検査員) 考查項目 工 種 С 橋梁下部工事 3. 出来形及び □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。<判断基準参照> □ 品質関係の測定方法又は □ 品質関係の測定方法又は 出来ばえ [関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] ※ ばらつきの判断は別紙 - 7参照。 測定値が不適切であったた 測定値が不適切であったた め、監督職員が文書で指示 め、検査職員が修補指示を ●評価対象項目 Ⅱ. 品質 を行い改善された。 行った。 【杭関係(コンクリート・鋼管・鋼管井筒・場所打・深礎等)】 □ 杭に損傷及び補修痕が無いことが確認できる。 □ 既製杭の打止め管理の方法及び場所打杭の施工管理の方法が整備されており、その記録を整理していることが確認できる。 □ 杭頭処理において、杭本体を損傷していないことが確認できる。 □水平度、鉛直度等が、設計図書を満足していることが確認できる。 □ 溶接の品質管理に関して、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ 支持地盤に達していることが、掘削深さ、掘削土砂等により確認できる。 □ 場所打杭について、トレミー管をコンクリート内に2m以上挿入して施工していることが確認できる。 □掘削深度、排出土砂、孔内水位の変動及び安定液を用いる場合の孔内の安定液濃度並びに比重等が、設計図書を満足していることが確認できる。 □配筋、スペーサーの配置及びコンクリート打設等が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ ライナープレートの組み立てにあたり、偏心と歪みに配慮して施工していることが確認できる。 □ 裏込材注入の圧力などが施工記録により確認できる。 ① 当該「評定対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 □ 強度確認、セメントミルクの比重管理などの品質に係わる事項の管理資料を整理していることが確認できる。 □その他 ② 削除項目のある場合は削除後の評定項目数を母数として計算した比率 (%) 理由: 計算の値で評価する。 ③ 評価値 (%) = 評価数 () /対象評価項目数 () 【躯体(鉄筋コンクリート)】 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は、C評価とする。 □コンクリートの配合試験及び試験練りを行っており、コンクリートの品質(強度・w/c、最大骨材粒径、塩化物総量、 単位水量、アルカリ骨材反応抑制等)が確認できる。 □ クラックがある場合、進行性又は有害なクラックが無く、発生したクラックに □ 施工条件や気象条件に適した運搬時間、打設時の投入高さ及び締固め方法が、定められた条件を満足していることが 対しては有識者等の意見に基づく処置を行っている。 ※別紙-7を参照 確認できる。(寒中及び暑中コンクリート等を含む) □コンクリート受け入れ時に必要な試験を実施しており、温度、スランプ、空気量等の測定結果が確認できる。 上記該当あれば・・・・・・c □ 圧縮強度試験に使用したコンクリート供試体が、当該現場の供試体であることが確認できる。 □コンクリートの圧縮強度を管理し、必要な強度に達した後に型枠及び支保工の取り外しを行っていることが確認できる。 □ コンクリートの打設前に、打継ぎ目処理を適切に行っていることが確認できる。 □ 鉄筋の品質が、証明書類で確認できる。 ばらつきで ばらつきで判断可能 ●判断基準 判断不可能 □コンクリート打設までにさび、どろ、油等の有害物が鉄筋に付着しないよう管理していることが確認できる。 50%以下 80%以下 80%を超える □ 鉄筋の組立及び加工が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 90%以上 а a' b b □ 圧接作業にあたり、作業員の技量確認を行っていることが確認できる。 価 75%以上 90%未満 b' □ コンクリートの養生が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 □ スペーサーの品質及び個数が、設計図書の仕様を満足していることが確認できる。 60%以上75%未満 b b' С C □有害なクラックが無い。 60%未満 □ その他

※ 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目 (評価値) だけで評価する。

別紙 - 3 26

[記人方法	5〕1. 該当す	「る項目の□に レ」マークを記人	、する。									(検査貝)		
考査項目	エ 種	a	a'	b		b'		С		d		е		
	消波ブロック 等製作・据付 工事	□ 品質関係の試験結果のばらつきと評 ※ ばらつきの判断は別紙 - 7 参照。 ●評価対象項目	P価対象項目の履行状況(評価値)か	ら判断する。<判断基準参照>	[関連基準	、土木工事施工管理基準	<u></u> ₹	の他設計図書に定められ	れた試験]	又は測定値か	「不適切で 法」	品質関係の測定方 又は測定値が不適 であったため、検		
Ⅱ. 品質		【製作】 □ 設計図書に基づくコンクリートの配□コンクリート打設時の必要な供試体□ 施工条件及び気象条件に適した運搬	*を採取し、強度・スランプ・空気量	等が確認できる。					.00 C C 0	が文書で指示 善された。		職員が修補指示をった。		
		□ 型枠、支保工の取り外し時のコンクリート強度が適正に管理されている。 □ 鉄筋の規格がミルシートで確認できる。 □ 鉄筋の引っ張り強度・曲げ強度が試験値で確認できる。 □ コンクリート打設までの鉄筋の保管管理が適正であることが確認できる。 □ 鉄筋の組立・加工が適正であることが確認できる。 □ コンクリートプロックの転置、仮置に際し、強度確認を行っている。 □ コンクリートプロックの仮置は、転倒、崩壊の恐れがない。									数を母数として計算した比率 (%) 計算 対象評価項目数 ()			
		□ 構造物と同様な養生条件におかれた □ その他		ა .				●判断基準	ば 50%以下	らつきで判断 80%以下	f可能 80%を超える	ばらつきで 判断不可能		
		理由: ●判断基準		-			評	90%以上	а	a'	b	b		
		【据付】					価	13/0以上 30/0不凋	a'	b	b'	b'		
		□ブロック間に局部的な空白がなく目					値	60%以上75%未満	b	b'	С	С		
		□ ブロックの据付けにあたって、ブロ □ ブロック間に間詰石、転落石、かみ		0				60%未満	b'	С	С	С		
		□ その他 理由:		<u>-</u>			※ 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目 (評価値)だけで評価する。							
	仮桟橋工事	a	a'	b		b'		С		d		е		
		□ 品質関係の試験結果のばらつきと評 ※ ばらつきの判断は別紙 - 7参照。	『価対象項目の履行状況(評価値)か	ら判断する。<判断基準参照>	[関連基準	、土木工事施工管理基準	し、そ	その他設計図書に定められ				品質関係の測定方 又は測定値が不適		
		●評価対象項目 □ 材料の品質証明が適切である。 □ 仕様書に定められている品質管理か	が実施されている。								そぞの改 査師	であったため、検職員が修補指示をった。		
		□ 杭の根入が適切である。 □ 部材の接合が適切である。 □ 施工の品質・形状が適切で良好な施 □ 品質管理及び記録の整理に創意工夫 □ 足場設備の設置は、関係法令及び認	卡がある。			② 削除項目のある場 ③ 評価値(%)	場合() =	」のうち、対象としない は削除後の評定項目数を 評価数() / 対象記 対象項目数が2項目以下	母数として計算 平価項目数(算した比率()	%)計算の値	で評価する。		
		□ きめ細かな施工がうかがえる。			●判断基準 ば 50%以下			ばらつきで判断可能 80%以下 80%を超え		ばらつきで る 判断不可能				
		理由:		<u>-</u>			評	90%以上	a	a'	b	b		
					İ		価		a'	b	b'	b'		
							値	60%以上 75%未満	b	b'	С	С		
								60%未満	b'	С	С	С		
								※ 試験結果の打点数	女等が少なくは					

別紙-3 ②

〔記入方法〕1.該当する項目の□に「レ」マークを記入する。

考查項目	エ	種	а	a'	b	b'	С			d		e	
3. 出来形	浚渫	・河道掘	□ 品質関係の試験結果のばらつきと言	評価対象項目の履行状況(評価値)カ	・ら判断する。 <判断基準参照 >	[関連基準、土木工事施工管理基	準、る	その他設計図書に定められ	ιた試験]	□ 品質関係の	の測定方法[□品質関係の測定方	
及び	削工事	F	※ ばらつきの判断は別紙 - 7参照。							又は測定値が	不適切で 法	又は測定値が不適	
出来ばえ										あったため、	監督職員 切]であったため、検	
			□ 仕様書等で定められている品質管理が	『宝施されている						が文書で指示	を行い改 査	E職員が修補指示を	
Ⅱ. 品質			□ 材料の品質及び形状が設計図書等との		3.					善された。	行	すった。	
			□ 濁り防止等環境保全に十分注意して施			i –							
			□ 浚渫、掘削工の施工上の注意事項 (付			1 1		該「評定対象項目」のうつ					
			□ 浮泥を巻き込まないよう工夫している	ことが確認できる。			_	除項目のある場合は削除征 	後の評定項目	数を母数として	て計算した比	率(%)計算の	
			□ 水質汚染対策を配慮した施工を行って	いる。				で評価する。 価値(%)=評価数	() /†:	全 郭本语日粉	. ()		
			□ 雨水による土壌汚染が拡大しないよう	に、作業手順及び排水対策等を適切に実	施している。	i 1	_	画順(3.	
			□ 規定された掘削深度が確保されており	、掘削面下を乱さないように施工してい	る。	L		44C 100100 12 14 1887 1507 150	1000 - 701	X1 -> % LI 10-X	оппшс у		
			□ 土壌の運搬が適切であり、運搬管理も	良好である。				●判断基準	ば	らつきで判断	可能	ばらつきで	
			□ 伐木、除根等の適正な運搬、積卸、処	分を行っている。				• 1341= 1	50%以下		80%を超え	skulpke — — Ak	
			□ 法面に有害な損傷部が無い。									. 3	
			□ 廃棄物、投棄物等の処理を適切に行っ	ている。			評		а	a'	b	b	
			□ 付属工の施工上の注意事項 (仕様書等	手による) が守られている。			価値	/5%以上 90%不凋	a'	b	b'	b'	
			□その他				胆	60%以上75%未満	b	b'	С	С	
			理由:		_			60%未満	b'	С	С	С	
						※ 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目							
								(評価値) だけで評価		- 13-41			
	水管桶	喬工事	a a' b b' c							d		е	
			□ 品質関係の試験結果のばらつきと言	- 評価対象項目の履行状況(評価値)カ	・ ら判断する。<判断基準参照>	- [関連基準、土木工事施工管理基	準、そ	その他設計図書に定められ	1た試験]	□ 品質関係 σ.)測定方法 □	品質関係の測定方	
			※ ばらつきの判断は別紙 - 7参照。						又は測定値が不適切		不適切で 法	又は測定値が不適	
			●評価対象項目]であったため、検					
			【工場製作関係】							が文書で指示	を行い改 査	、改 査職員が修補指示を	
			- □ 鋼材の員数照合がミルシート等(現物	物照合を含む) で確認されている。						善された。	行	テった。	
			□ 管材料は日本水道協会検査証明等、品	質規格証明書が整備されている。									
			□ 溶接作業にあたり、作業員の技量確認	************************************			Ī			,	•		
			□ 塗装する面が乾燥状態であることが確					① 当該「評定対象項目」	のうち、対象	象としない項目	目は削除する	•	
			□ 素地調整の場合、第1種ケレン後4 時	時間以内に金属前処理塗装を実施している。	ることが確認できる。			②削除項目のある場合に		官項目数を母数	枚として計算	した比率	
			□ 塗料の空缶管理が、写真で確実に空で	あることが確認できる。				(%)計算の値で評価す		\		,	
			□ 特記仕様書等による品質管理が適正に	行われている。				③ 評価値(%) =④ なお、削除後の評価が		,		· ·	
			【架設関係】				L	(サなわ、肘原板の計画)	小家項目数///	2. 項目以下の*	勿口は、し計	一回とする。	
			□ ボルトの締付確認が実施され、適切に			●判断基準	14	らつきで判断	可能	ばらつきで			
			□ ボルトの締付機、測定機器のキャリブ	「レーションを実施している。			● FIRM E -	50%以下		80%を超え	Notine - TAK		
			□ 支承の据付で、コンクリート面のチッ		:上げ面に水勾配がついている。		_					. 3	
			□ 付属構造物にきめ細かな施工がうかが	える。			評		а	a'	b	b	
			□その他				価値	/5%以上 90%不凋	a'	b	b '	b '	
			理由:		<u>-</u>		胆	60%以上 75%未満	b	b'	С	С	
							60%未満 b'			С	С	С	
								※ 試験結果の打点数	(等が少なくは	らつきの判断	ができないは	場合は評価対象項目	

別紙-3 28

〔記入方法〕1.該当する項目の□に「レ」マークを記入する。

考查項目	工 種	а	a'	b	b'		С		d		е			
3. 出来形	競技場改修工	□ 品質関係の試験結果のばらつきと言	評価対象項目の履行状況(評価値)か	ら判断する。<判断基準参照>	[関連基準、土木工事施工管理	理基準、	その他設計図書に定められ	ιた試験]	□ 品質関係の測定方法		品質関係の測定方			
及び	事	※ ばらつきの判断は別紙 - 7参照。							又は測定値が	不適切で 法	又は測定値が不適			
出来ばえ		●評価対象項目							あったため、	監督職員 切	であったため、検			
		□ 材料の品質証明が適切である。							が文書で指示	を行い改 査	職員が修補指示を			
Ⅱ. 品質		□ 付付め品貢配切が過ぎてある。 □ 仕様書に定められている品質管理が	が実施されている						善された。	行	った。			
		□ 部品や二次製品の品質及び形状が記		ことが確認できる。										
		□ 土の締め固めや埋め戻しを適切に行				① 当		ち、対象としま	たい項目は削り	全する				
		□ 植生工で植生の種類、品質、配合、				_	_		つ評定項目数を母数として計算した比率(%)計算の					
		□ 塗装施工上の注意事項が守られてい				値	で評価する。							
		□ 溶接施工上の注意事項が守られてい	いる。			③ 評	福値(%)=評価数	() /対	象評価項目数	()				
		□ 施工の品質・形状が適切で良好な施	工である。			4 な	お、削除後の評価対象項	目数が2項目	以下の場合は、	C評価とす	5.			
		□ 品質管理に創意工夫がある。									'			
		□ きめ細かな施工がうかがえる。					●判断基準	は	らつきで判断	可能	ばらつきで			
		□ その他						50%以下	80%以下	80%を超え	3 判断不可能			
		理由:		<u>-</u>		===	90%以上	а	a'	b	b			
						但		a'	b	b'	b'			
						値		b	b'	С	С			
							60%未満	b'						
						<u> </u>		ı	C C	C	C			
					,	※ 試験結果の打点数等が		きの判断がで	きない場合は	評価対象項目				
							(評価値)だけで評価	りる。						
	擁壁工事等	a	a'	b	b'		С		d		е			
	(井桁ブロッ	□ 品質関係の試験結果のばらつきと言	評価対象項目の履行状況(評価値)ヵ	ら判断する。<判断基準参照>	[関連基準、土木工事施工管理	理基準、	その他設計図書に定められ							
	ク)	※ ばらつきの判断は別紙 - 7参照。					又は測定値が不適切で 法又は測定値							
		●評価対象項目							あったため、	ったため、監督職員 切であったため、検				
		□ 設計図書に基づくコンクリートの配	配合試験及び試験練りが行われており	、適切なコンクリートの規格(強度	夏・W/C ・最大骨材粒径・5	塩基総量アルカリ骨材対策等) が確認できる。 が文書で指示を行い改 査職員が修								
		□ 施工条件及び気象条件に適した運搬	般時間、打設時の投入高さ、締固時の	バイブレーターの機種、養生方法等	₹、適切に行っている。(寒中	中及び暑	羊 ナ わ ナ - ケー ケー							
		□ コンクリート打設時の必要な供試体	本を採取し、強度・スランプ・空気量	等が確認できる。										
		□ 型枠、支保工の取り外し時のコング					① 当該「評定対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。							
		□ 基礎部コンクリートと同様な養生乳					② 削除項目のある場合は削除後の評定項目数を母数として計算した比率							
		□ 施工基面が平滑に仕上げられている	3.				(%) 計算の値で評価す							
		□ 井桁ブロック部材の運搬、仮置きり	- こあたり十分な注意を払っていること	が確認できる			③ 評価値(%)=							
		□ 井桁ブロック部材の据付にあたり、	ブロックの配列、連結が適切である	ことが確認できる。		I L	④ なお、削除後の評価	付家埧日数か	2 項目以下のは	易合は、 C 評1	曲とする。			
		□ 井桁ブロックの部材に損傷が認め		<u> </u>	▲小小木井、井		es - + - william		183 - + -					
		□ 裏込材や中詰石等が適切に施工され		●判断基準		らつきで判断		ばらつきで z 判断不可能						
		□ 埋戻しにあたり締固めが適切であることが確認できる。					1	50%以下	80%以下	80%を超え	2 +101/1\11R			
		□ 端部や曲線部の処理が適切である。				副	90%以上	а	a'	b	b			
		□その他				征	13/0以上 30/0不凋	a'	b	b'	b'			
		理由:	理由:						b '	С	С			
		□ クラックがある提合 准行性♡!+#							С	С	С			
]	□ クノックかめる場合、連11注入は1 ※ 別紙 – 7 を参照	日日はノノノノルはへ、 北土したソノ	/ / にMU には旧戦日寺の忌兄に星	トノへだ匣で刊りている。		※ 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目							
i	•													

別紙-3 29

〔記入方法〕1. 該当する項目の□に「レ」マークを記入する。

考査項目	工 種	а	a'	b	b'		С		d		е
3. 出来形 及び 出来ばえ II. 品質	擁壁工事等 (鋼製枠)	□ 品質関係の試験結果のばらつきと割 ※ ばらつきの判断は別紙 - 7 参照。 ●評価対象項目 □ 鋼材の品質がミルシート等で確認で	れた試験]	又は測定値が あったため、	「不適切で 法」 監督職員 切っ 「を行い改 査験	品質関係の測定方 又は測定値が不適 であったため、検 職員が修補指示を った。					
". шд		□ 基礎処理が設計図書に基づき所定の □ 鋼材の組み立て方法が施工計画書に □ 各部材のポルトの締め付け確認を行 □ 中詰石がかみ合せも良く、枠の角か □ 中詰石の上面は蓋スクリーンとの間 □ 埋め戻しは、鋼製枠に締め固め機材	記述され、吊り込み、据付、組み立 うった記録がある。 いら丁寧に空隙のないよう適切に詰め 引に間隙ができないように詰め込まれ	込まれている。 ている。		② 肖 値 ③ 評	① 当該「評定対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評定項目数を母数として計算した比率値で評価する。 ③ 評価値(%) = 評価数 () / 対象評価項目数 () ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は、C評価とする				率(%)計算の
		□その他					▲如此士淮		2 otening TAK		187 - + -
		理由:		_			●判断基準	50%以下	ざらつきで判断 80%以下		ばらつきで る 判断不可能
						===	平 90%以上	а	a'	b	b
						ſī	75%以上 90%未満	a'	b	b'	b'
						ſi	60%以上75%未満	b'	С	С	
							60%未満	b'	С	С	С
				* 試験結果の打点数等が (評価値)だけで評価		うきの判断がて	きない場合は	評価対象項目			
		a	a '	b	b,		(計画値) /2 (V) C計画 C	11,00	d		е
	魚礁ブロック 製作・運搬・ 沈設工事	□ 品質関係の試験結果のばらつきと評 ※ ばらつきの判断は別紙 - 7 参照。 ●評価対象項目 □ 仕様書で定められている品質管理が □ 材料の品質及び形状が設計図書等と	実施されている。		[関連基準、土木工事施工管	管理基準、		1た試験]	□ 品質関係の 又は測定値が あったため、	の測定方法 □ 『不適切で 法』 監督職員 切っ 『を行い改 査問	品質関係の測定方 又は測定値が不適 であったため、検 職員が修補指示を った。
		□ 漁礁プロックの転置、仮置に際し、 □ 漁礁プロックの仮置は、転倒、崩壊 □ 漁礁プロックの沈設にあたり、施工 □ その他 理由:	等の恐れがない。 上の注意事項(仕様書等による)が ^に	守られている。 <u>-</u>			① 当該「評定対象項目」 ② 削除項目のある場合 (%) 計算の値で評価す ③ 評価値(%) = ④ なお、削除後の評価が	は削除後の評別 ける。 評価数 (定項目数を母類) /対象評価	数として計算し 西項目数 (した比率)
							●判断基準	は	らつきで判断	 f可能	ばらつきで
								80%以下	80%を超える	る 判断不可能	
						E E	平 90%以上	а	a'	b	b
							75%以上 90%未満	a'	b	b'	b '
						ſi	60%以上 75%未満	b	b'	С	С
							60%未満	b'	С	С	С
							※ 試験結果の打点数(評価値)だけで評価		ずらつきの判断	 fができない場	合は評価対象項目

別紙-3 30

〔記入方法〕 1. 該当する項目の□に「レ」マークを記入する。

3. 出来形 暗渠排水工事 📗 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。<判断基準参照> [関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] □ 品質関係の測定方法 □ 品質関係の測定方 (木枠栗石詰) ※ ばらつきの判断は別紙 - 7 参照。 及び 又は測定値が不適切で 法又は測定値が不適 出来ばえ あったため、監督職員 切であったため、検 ●評価対象項目 が文書で指示を行い改 査職員が修補指示を □ 木枠栗石詰の施工手順が地すべりを助長しないよう適切であった。 Ⅱ. 品質 行った。 善された。 □ 設計図書に基づく規格、寸法、仕上げに適合する木材を使用している。 □ 木杭の打ち込みにあたり、杭間隔が適切に施工されている。 □ 木杭の打ち込みにあたり、杭頭部の保護が適切にされ割れ等の有害な損傷が認められない。 ① 当該「評定対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 ② 削除項目のある場合は削除後の評定項目数を母数として計算した比率 (%) 計算の □ 木枠部材の配置が設計図書に基づいて適切に組み立てられている。 □ 木枠部材の結束、連結処置が適切に施工されている。 ③ 評価値 (%) = 評価数 () /対象評価項目数 () □ 暗渠管の据付基盤に凹凸蛇行がないよう施工されている。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は、C評価とする。 □ 暗渠管の接続が適切に施工されていることが確認できる。 □ 石材が均一に詰め込まれていることが確認できる。●判断基準 ●判断基準 ばらつきで判断可能 ばらつきで □ 栗石の天端処理が適切に施工されていることが確認できる。 判断不可能 □ 吸出し防止材が適切に施工されていることが確認できる。 50%以下 80%以下 80%を超える □ 埋め戻しは、締固めや地山のすり付けに配慮して施工されている。 90%以上 □ その他 価 75%以上90%未満 b' a' b b' 60%以上75%未満 b' С 60%未満 h' ※ 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目 (評価値) だけで評価する。 а' b b' d C 傾斜堤工事 □ 品質関係の試験結果のばらつきと評価対象項目の履行状況(評価値)から判断する。<判断基準参照> [関連基準、土木工事施工管理基準、その他設計図書に定められた試験] □ 品質関係の測定方法 □ 品質関係の測定方 異形ブロッ ※ ばらつきの判断は別紙 - 7参照。 又は測定値が不適切で 法又は測定値が不適 あったため、監督職員 切であったため、検 ●評価対象項目 が文書で指示を行い改 査職員が修補指示を □ 設計図書に基づくコンクリートの配合試験及び試験練りが行われており、適切なコンクリートの規格 (強度・W/C・最大骨材粒径・塩基総量アルカリ骨材対策等) が確認できる。 善された。 行った。 □ コンクリート打設時の必要な供試体を採取し、強度・スランプ・空気量等が確認できる。 □ 異型ブロックの製作にあたって型枠工、コンクリート打設、養生が適正であることが確認できる。 ① 当該「評定対象項目」のうち、対象としない項目は削除する。 □ 異型ブロックの転置、仮置に際し、強度確認を行っている。 ② 削除項目のある場合は削除後の評定項目数を母数として計算した比率 □ 異型ブロックの運搬、転置、仮置きに際し転倒、崩壊等の恐れがない。 (%) 計算の値で評価する。 □ 異型ブロックの製作、運搬、仮置き、据付にあたり気象条件、海象条件に応じた施工方法を行っている。 ③ 評価値(%) = 評価数() /対象評価項目数() □ 裏込め材が平滑に仕上げられている。 ④ なお、削除後の評価対象項目数が2項目以下の場合は、C評価とする。 □ 異型ブロックの据付けにあたって、ブロックの配列、連結、かみあわせが適切であり安定性が確認できる。 □ 異型ブロックの据付けにあたって、基礎面とブロック間及びブロック相互間にかみ合せ石等が挿入されていないことが確認できる。 ●判断基準 ばらつきで判断可能 ばらつきで □ その他 判断不可能 50%以下 80%以下 80%を超える 90%以上 b b 75%以上 90%未満 b' b b' 60%以上 75%未満 60%未満 b' ※ 試験結果の打点数等が少なくばらつきの判断ができない場合は評価対象項目 (評価値) だけで評価する。